

YOSHIKO' 通信

YOSHIKO'通信で今回紹介させていただくのは、今人気のSUP（サップ）の魅力についてです。
SUPはハワイで発祥し、水上に浮かべたボードの上に立って、オールでパドルングするマリンスポーツです。
水があるところであればどこでも楽しめて、ダイエット効果まで期待できる心地良いスポーツです。
今年はジュニアSUPイベントや、親子でSUP体験、英語でSUPなど60名以上の小中学生、保護者の方にも体験してもらいました🌟
SUPレース（マラソンの様に順位を競う）にも参加し安浦町で一緒に練習していたメンバーも入賞🌟
かくいう私も10㌔ほど痩せて健康と美容のために生涯スポーツとして続けていこうと思っています♪
ちょっとやってみたいなあ〜と思ったそのあなた、一緒に安浦の海をスイスイ漕ぎましょ🌊

Instagram @yoshikostyling お問い合わせ 呉市地域おこし協力隊 鈴木淑子 @YOSHIKOSTYLING



親子でSUP体験



SUPレース入賞



SUPボード



呉市長もSUPイベント視察



安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)



山田 賢一 会長

安浦町まちづくり協議会 会長就任挨拶

このたび、田中敏弘前会長から後任として新会長に就任することになりました。災害、コロナも乗り越えて皆様のお力をかり活動してまいりました。

前会長には顧問として今後ともまちづくりに協力していただき、「優しさと笑顔広がる町やすうら」をスローガンに皆様のご協力のもと、活動してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

あの日から5年 ～豪雨災害に学ぶ防災～

2023(令和5)年7月8日(土) きらめきホールで、「平成30年7月西日本豪雨災害」に学ぶ防災研修会を開催しました。

献花台には多くの方が花を手向けてくださいました。そして、当時の災害写真展示をし、被災地復興の取り組みを紹介しました。ホールでは実際に被害にあわれた方のパネルディスカッション、復興状況、防災対策の話をしていただきました。あらためて地域のつながりの大切さを認識し、自分の住んでいる所のハザードマップをもとに、日頃から災害にそなえての準備が大切だと思いました。

参加された方は220名でした。

あの日から5年、豪雨災害で犠牲になられた方のご冥福をお祈り申し上げます。



主催：安浦地区自治会連合会 協力：呉市復興総室・危機管理課
共催：安浦町まちづくり協議会、安浦町防災リーダーネットワーク、呉市消防団安浦地区隊

やすうら再発見

散策のすすめ ◆七浦海岸 自然がいっぱいの海岸線

川尻町小用から塩谷までの七つの浦(小用浦・大浦・小浦・久多田浦・池の浦・小島浦・塩谷浦)のことを総称して「七浦海岸」と呼ばれています。

風光明媚で伝説も多く、自然環境もほとんど手つかずの状態、砂浜・岩礁などが残っています。そこで広島県では、1980(昭和55)年8月1日にいつまでも海水浴などで利用できる浜辺を残しておくために久多田浦を七浦自然海浜保全地区、小島浦を中小島自然海浜保全地区に指定して、環境保全を図っています。

小島浦には、周囲が約80mの岩礁でできている湯桶の口島があり、干潮時には歩いて渡ることができます。

旧記によると「湯桶の口」に似ていることからこの名前が付けられたとされており、島には砦があり、海賊の見張り所があったとのこと。

子どもの頃、魚釣り、潮干狩り、海水浴などをした思い出があります。

塩谷浦は、この地域の言い伝えによると現在よりも入り江が深く、多くの船が風待ち潮待ちのため停泊していたとのこと、また、浜に流木などの漂流物が多く流れ着くと翌日は雨になると言われています。

現在、川尻から塩谷浦までは、県道の整備中で車で道のり抜けはできません。



久多田浦



湯桶口島と小島浦

※湯桶…注ぎ口と柄のついた、湯を入れて客に供するのに用いる器。

やすうら 記憶遺産 第29話 コンクリート船武智丸

連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で29回目のお話となります。



山本譲が安浦を描くときに一貫した、対象に遠からず近からずの中景で、波静かな湾に2隻の船が仲良く並ぶ風景画に仕上げています。武智丸という2隻の船が、日本海軍の物資輸送に利用された戦争遺産であり、さらには産業遺産、土木遺産でもあるという、珍しい「生きた」遺産であることはこの絵からは分からないでしょう。安浦の、何気ない普段の港の景色として画家はおだやかな視線で描いています。

終戦間もない1945（昭和20）年の枕崎台風は安浦にも甚大な被害をもたらしました。「防波堤が必要だ。」けれども、当時の技術では軟弱地盤の港に防波堤を造ることが出来ません。その時、浮く「船」を防波堤にしようとする構想が持ち上がり、戦争の遺物となるはずだった武智丸は戦後の地域防災に貢献する存在として再生したのです。

第二次世界大戦の鉄鋼不足で苦肉の策として造られたコンクリート船・武智丸4隻のうち、2隻が三津口湾に置かれ、70年以上も経過してなお堅牢な姿を保ち港を守っています。日常に同化した、生き続ける遺産という意味ではこれほど珍しい風景はありません。波静かな港の絵として言葉なく絵を見るとき、かえってこの絵は平和の尊さを感じさせてくれるように思います。

くれんどパン屋、BROTO 11周年♪

地域ネットくれんどは、障害のある人たちやお年寄りの方が地域社会の中で一人の市民として安心して生き生きと暮らせるよう生活介護、放課後等のデイサービス、グループホームなど様々な事業を行っています。

パン屋『BROTO』は就労継続B型の事業所です。

毎朝焼き立てのパンを販売し続けることで、創業11周年を無事に迎えることができました。仕事をするメンバーの頑張りとともに、何よりも地域の方々、遠くから買いに来てくださるお客様の温かいご支援のおかげだと感謝しています。

店名「BROTO」は、ポルトガル語で新芽・若葉という意味です。作ること・食えること・感動することを通して、人と人とのつながり、みんながハッピーになることを願って、これから12年、13年…続いていけるように、BROTO、くれんど一丸となって頑張っていきます。これからも温かく見守ってください。



BROTO

安浦町中央5丁目12-25

☎0823-84-3868

営業時間 10:00～16:00

定休日 日曜日・月曜日



Instagram



カラダおもいのおやつ ホオノキ

カラダおもいのおやつ？

ホオノキで作るおやつやパンはできるだけ、我が家で作ったお米、環境にもやさしい有機食材、甘麹やきび砂糖などの自然に近い甘味を使っています。

おやつやパンによく使われる小麦粉、動物性食材、白砂糖は使いません。

輸入品がほとんどの小麦粉は日本に運ぶために虫避けの農薬がまかれていたり、飼育動物は育て方や飼料に問題があることもあり、白砂糖は体と心の不安定を引き起こすと言われているからです。

“カラダおもいのおやつ” ホオノキです。

子どもの頃からお菓子やパンを作ることが好きで、食の基本は農業！と思い、学生時代は農学系のことを学び、その後、「多くの人の健康に食で貢献したい」と食品メーカーに就職。仕事の傍らマクロビオティックや薬膳などを学ぶうちに、大量生産の食品ではなかなかそれは叶わないと思い退職。

2020年に大西電設敷地内で小さなおやつ工房ホオノキを始めました。



お米パン



マフィン



玄米パン



薬飯（ヤッパ）



よもぎクッキー



カカオニブクッキー



藻塩ココナッツ

人だけでなく、地球環境のことなどもひっくるめて、みんながホッと笑顔になってくれたらいいなという想いを込めて、おやつ作りをしています。子どもたちにも安心して食べてもらえるように、そして子どもたちの未来の環境にも配慮して。

現在は珈琲屋さんでのクッキーの委託販売と不定期ですがイベント出店にて販売しています。販売情報は公式LINEやSNSでお知らせしています。



Facebook



Instagram



LINE

